

研究プロジェクト「美的近代におけるローカリズムと反ローカリズム」

研究代表者：三谷研爾（文学研究科教授）

連携研究者：奥彩子（COE 特任研究員）

佐々木茂人（大谷大学助教）

《問題設定》

- ・ 美的近代（芸術的モダニズム）を位置づける言説の二局面
 - ⇒ 社会的近代とのアンビヴァレントな関係：合理主義・功利主義の忌避、技術礼賛
 - ⇒ 地方性・土着性の克服：「普遍性」「国際性」「同時性」の追求
- ・ 国民国家における〈中心〉と〈周縁〉のせめぎあい
 - ⇒ 文化的ヘゲモニーをめぐる言説の布置：「革新性」「前進性」vs「風土性」「固有性」
 - ⇒ 周縁地域出身者によって不断に活性化される中心都市のメカニズム
 - ⇒ 周縁地域のモダニズムの分析によるローカリズム／反ローカリズムの脱構築

《問題群の系列化》

- ・ 中東欧地域とモダニズム
 - ⇒ 〈中心〉と〈周縁〉の流動化、重層化
 - ⇒ 地政学的変容とモダニズム芸術の機能
- ・ モダニズム／ナショナリズム／ローカリズム
 - ⇒ モダニズムとナショナリズムの拮抗・協働 Vgl. ユダヤ系知識人の位置
 - ⇒ ローカリズムのナショナリズムへの転化
 - ⇒ ローカルなモダニズムの記述
- ・ メディアによるモダニズム的／ローカリズム的言説の再生産

《ローカリズム再考》

【2008年度研究活動概要】

第1回研究会 (06.09, 学内)

報告: Literarische Landschaft としてのドイツ

報告者: 吉田耕太郎 (京都大学非常勤講師/ドイツ思想史・文化史)

第2回研究会 (06.16, 学内)

報告: 旧ユーゴスラヴィアの文化的多様性

報告者: 奥彩子 (ユーゴスラヴィア文学)

第3回研究会 (06.23, 学内)

報告: シャガールと響き合うために - 領域越境的研究の試み

報告者: 樋上千寿 (大阪大学非常勤職員/西洋美術史)

日本独文学会秋季研究発表会シンポジウム「プラハとダブリン」 (10.13, 岡山大学)

報告: カフカにおける〈交通〉とアイデンティティ

報告者: 三谷研爾

第4回研究会 (12.12, 学内)

報告: 「記憶」としてのユダヤ文化: アイディッシュをいかに語るか - ポーランドの事例から

報告者: 佐々木茂人 (ドイツ文学)

第5回研究会 (1.19, 学内)

報告: 文学市場の誕生と発展 - 19世紀北部ドイツの書籍出版業と作家

報告者: 竹田和子 (大阪音楽大学准教授/ドイツ文化論)

レクチャーコンサート (1.24, ザ・フェニックスホール)

講演題目: モラヴィアから世界へ - 土俗のひびき、越境のしらべ

講演者: 三谷研爾

中欧モダニズム/ローカリズム - 問題構制と方法論をめぐる若手ワークショップ

(3.19, 学内)

・ 川島 隆: モダニズム運動の中の「プラハ・サークル」の位置

- 中村 真：「民衆の作曲家」とは何者か ― ヤナーチェクの民謡研究におけるモラヴィア
- 池田あいの：ヤナーチェクの音楽的翻訳
- 飯田皆実：バロック宮廷都市ドレスデンのモデルネ
- 佐々木茂人/唐澤佑子/大矢章子：チェコ・スロヴァキアのロマ文学の現状 ― 文学研究・人類学的アプローチから